こもれび VOL.10

第10話　さぁ、まちづくりをすすめよう

これまで、住民が主人公となって行うまちづくりの大切さと、これからのまちづくりの方針についてお話をしてきました。今回は、これから地域のまちづくりを進めていく上で必要となることを、みんなでまとめてみることにしました。

今日は、今までのおさらいも兼ねて、これから地域のまちづくりを進めていく上で必要となることや、様々な支援策について話してみたいと思います。その前に、まちづくりは楽しくやるということが大切です。無理があったり仕方なく行うのでは、長続きしませんからね。そのためには、なぜまちづくりをするのかをよく話し合うことです。その上で、まちづくりを進めていくのですが、まず何から始めたらいいのかな。伸ちゃんだったら、どうする？

僕勉強したから、**「まちづくりをどうやって始めていくか」**知っているよ。まず、**自分たちのまちをよく知る**ために、みんなでまちの中を歩いてみるんだよね。そしてここは木が多くて気持ちいい所だから大切にしようねとか、この道は歩道がなくて学校に行くのに危ないねとか、いいところや直したいところをみんなで地図に書いたりしていくんだよね。そうすれば、住みたいなぁっていうまちが、見えてくるんだよね。

そうだね、それが**第１段階**だね。伸ちゃん、よく勉強したね。では、次の段階は？

はい、それは私から。**第２段階**は、**まちづくりの構想を検討していく**ことですね。練馬区のまちづくりの基本である都市計画マスタープランの地域別指針をよく見ながら、皆で調べて作った地図などをもとによく話し合い、地域のいろんな情報を集めて研究をしたり、勉強会などを重ねて、具体的な内容にまとめていくのですね。

その際、地域の都市計画の状況や道路・公園の配置などの必要な情報・資料は、区から提供してもらうことも大事ですね。また、まちづくりの方法を勉強してみたいとか、実践例を知りたいという時には、区や都市整備公社（以下、公社）・専門家・ＮＰＯなどに相談してみるも有効ですね。では、次に必要なことは何でしょう？

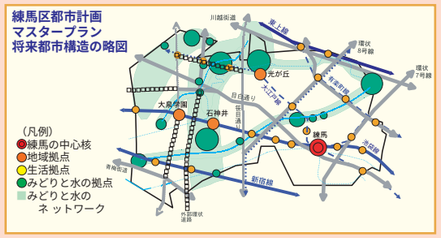
わしは、次の**第３段階**をこう考えているんだよ。誰にも分かりやすい計画をつくるには、勉強会を広げて、**地域のまちづくり協議会**をつくって考えていけばいいんじゃないのかな。ただし、会員は地域の代表だから、みんなの意見を聞いて、出来るだけ実現性のある案にまとめないとね。やりがいはあるけれど、土地などの権利に関わってくる事もあるから、その辺はしっかりと責任を持ってやらにゃいかんな。しかし、まとめていく上で専門家に教えを乞わなければならないことも沢山あるし、様々な支援というか、後押しも必要になってくるよなぁ。

そのとおりです。今、区では、地域のまちづくり活動を支援していくために「まちづくり条例」を区民と協働してつくっているところですし、専門家の知識が必要な場合には、公社が対応しています。では、その次にどう進めていったらよいでしょう。

次の**第４段階**ですがねえ。協議会でまとめた計画案は、**皆が協力出来るものにしたい**ですよねえ。そのためには、まとめた案は広く皆に知らせてもらって、他の人の意見などをよく聞いて、直す必要のあるところは取り入れてきちんとした計画にしないとね。でも中には地域の約束事もあるでしょうし、法律で定めた手続きが必要なものもあるわよね。

そうですね。その場合にはやはり、区や公社に相談した方がいいですね。でも皆さん本当にまちづくりについて明るくなりましたね。そして最後の**第５段階**ですが、いよいよ**計画を実現**していくことになります。決定した計画に基づいて、住民や地権者の方々と共に、区や公社、ＮＰＯなどがそれぞれの役割を持って協力しながら、実現していくわけですね。まちづくりは息の長い事業です。計画を実施していきながら、それを維持・管理していくことが大事です。そのための支援策も、区や公社、ＮＰＯなどと一緒に考えていく必要がありますね。

わかりました。さぁ、それでは、私達もまちづくりをすすめていきましょう。皆さんも自分の住んでいる所をより良いまちにしていくために考えていきませんか。


練馬区都市計画
マスタープラン
将来都市構造の略図
（凡例）
練馬の中心核
地域拠点
生活拠点
みどりと水の拠点
みどりと水のネットワーク
光が丘
大泉学園
石神井
練馬
新座
新座
新座